

# 高等教育の質保証と 学習成果を重視するアプローチ 看護系人材養成への示唆

大学における看護系人材養成の  
在り方に関する検討会

2010年5月20日

川嶋 太津夫

神戸大学



# 問題意識

ユニバーサル化

少子化

グローバル化

知識基盤社会

ポートフォリオ社会

アカウンタビリティ

多様化

大学全入

同等性  
比較可能性

コンピテンス

ポータビリティ  
APL

付加価値

質の保証



# 不思議な現状

- 「質」の定義がないまま進む質保証の議論  
『我が国の高等教育の将来像』

「本来、保証されるべき『高等教育の質』とは、  
教育課程の内容・水準、学生の質、教員の質、  
研究者の質、教育・研究環境の整備状況、管  
理運営方式の総体を指すものと考えられ  
る。」(21-22)

⇒「質」の定義ではなく、領域・次元・観点

そして、**インプットとプロセス**



# 「質」をどうとらえるか

## 質Qualityとは

卓越性Excellence

エリート段階

目的適合性Fitness for Purpose

マス段階

標準Standard

ユニバーサル段階



# 「中長期的な大学教育の在り方に関する第1次報告」

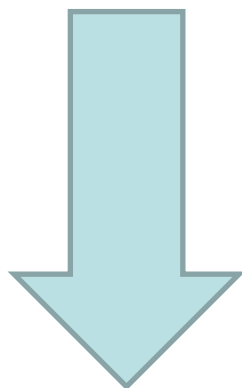
(2) 大学教育において保証されるべき質の対象には、学生、教育課程の内容・水準、教員、研究者、教育・研究環境の整備状況、管理運営方式など、様々な要素がある。

その上で、最終的に保証されるべきは、学生の学びの質と水準である。その保証は、それぞれの大学が責任を持つことが大前提である。

学生の質は社会が評価するものであり、その評価を大学が直接コントロールすることはできない。大学ができるのは、学生の質を保証するための体系を適切に整えること、そして、その質が常に向上するような工夫改善を可能とする仕組みを機能させることである。



# 保証すべき「質」とは



授与する**学位**



学生の**学習**



習得した知識や  
能力の**証明**

# 結果として

アウトカム

+

ラーニング

+

一定の水準・標準

||



学習成果に基づく枠組

# 高等教育の質（優れた大学）

大学の潜在的  
能力の指標

大学の質の  
間接的な指標

大学の能力を活用  
した質（有効性）  
の直接的な指標

インプット	プロセス	アウトプット	アウトカムズ
学生の背景 (入学試験の成績、 性別など)	大学が提供する教 育プログラム&各 種サービスなど	学生の成績、卒業 率、就職率など	学生が身につけた 知識やスキル、態 度、価値観など
教員の背景 (保有学位、年齢な ど)	教員の教育負担、 クラスサイズなど	論文数、FD活動、 授業回数など	論文引用指数(イン パクト)、教員の能 力改善など
教育資源 (蔵書数、PC数な ど)	教育理念、学則、 管理運営体制など	利用可能な諸資源 のデータ、FDへの 参加率など	学生の学習と成長、 成功など



設置  
審査

認証  
評価

United Way of Am

次の  
認証  
評価

より



# 誰が質保証の主体か

保証すべき質＝学位（学生の**学習成果**）



学習機会の提供者＝

**大学**

しかし、高等教育の

{ ユニバーサル化  
グローバル化

**それだけで十分か？**

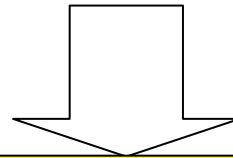


**様々な参照枠組が不可欠**



# 現行の「公的」質保証の枠組

- ・ 設置認可基準（最低基準）
- ・ 設置審査（設置時）
- ・ 自己点検・評価（毎年）
- ・ 認証評価（7年以内）



学位  
分野

質保証の基盤が弱い（不在）



# 学位の質保証基盤:「学士」

## 「学校教育法」第83条

大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開することを目的とする。



# 学位の質保証基盤:「学士」

## 「大学設置基準」第19条

- 第十九条 大学は、当該大学、学部及び学科又は課程等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。
- 2 教育課程の編成に当たっては、大学は、学部等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮しなければならない。

# 学位の質保証基盤:「学士」

「大学設置基準」第32条

卒業の要件は、大学に四年以上在学し、百二十四単位以上を修得することとする。



# 学位の質保証基盤:「修士」

## 「大学院設置基準」第3条

修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする。



# 学位の質保証基盤:「修士」

## 「大学院設置基準」第16条

修士課程の修了の要件は、大学院に二年(二年以外の標準修業年限を定める研究科、専攻又は学生の履修上の区分にあつては、当該標準修業年限)以上在学し、三十単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該修士課程の目的に応じ、当該大学院の行う修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び試験に合格することとする。

# 学位の質保証基盤:「博士」

## 「大学院設置基準」第4条

博士課程は、専攻分野について、研究者として  
自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。





# 学位の質保証基盤:「博士」

## 「大学院設置基準」第17条

博士課程の修了の要件は、大学院に五年(五年を超える標準修業年限を定める研究科、専攻又は学生の履修上の区分にあつては、当該標準修業年限とし、修士課程(第三条第三項の規定により標準修業年限を一年以上二年未満とした修士課程を除く。以下この項において同じ。)に二年(二年を超える標準修業年限を定める研究科、専攻又は学生の履修上の区分にあつては、当該標準修業年限。以下この条本文において同じ。)以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における二年の在学期間を含む。)以上在学し、三十単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該大学院の行う博士論文の審査及び試験に合格することとする。



# 学位の質保証基盤：「専門職学位」

## 「学校教育法」第99条第2項

大学院のうち、学術の理論及び応用を教授研究し、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を担うことを目的とするものは、専門職大学院とする。

## 「専門職大学院設置基準」第2条

専門職学位課程は、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的とする。



# 学位の質保証基盤：「専門職学位」

専門職学位課程の修了の要件は、専門職大学院に二年（二年以外の標準修業年限を定める研究科、専攻又は学生の履修上の区分にあっては、当該標準修業年限）以上在学し、当該専門職大学院が定める三十単位以上の修得その他の教育課程の履修により課程を修了することとする。



# 学位「間」の関係は？

博士

修士

学士

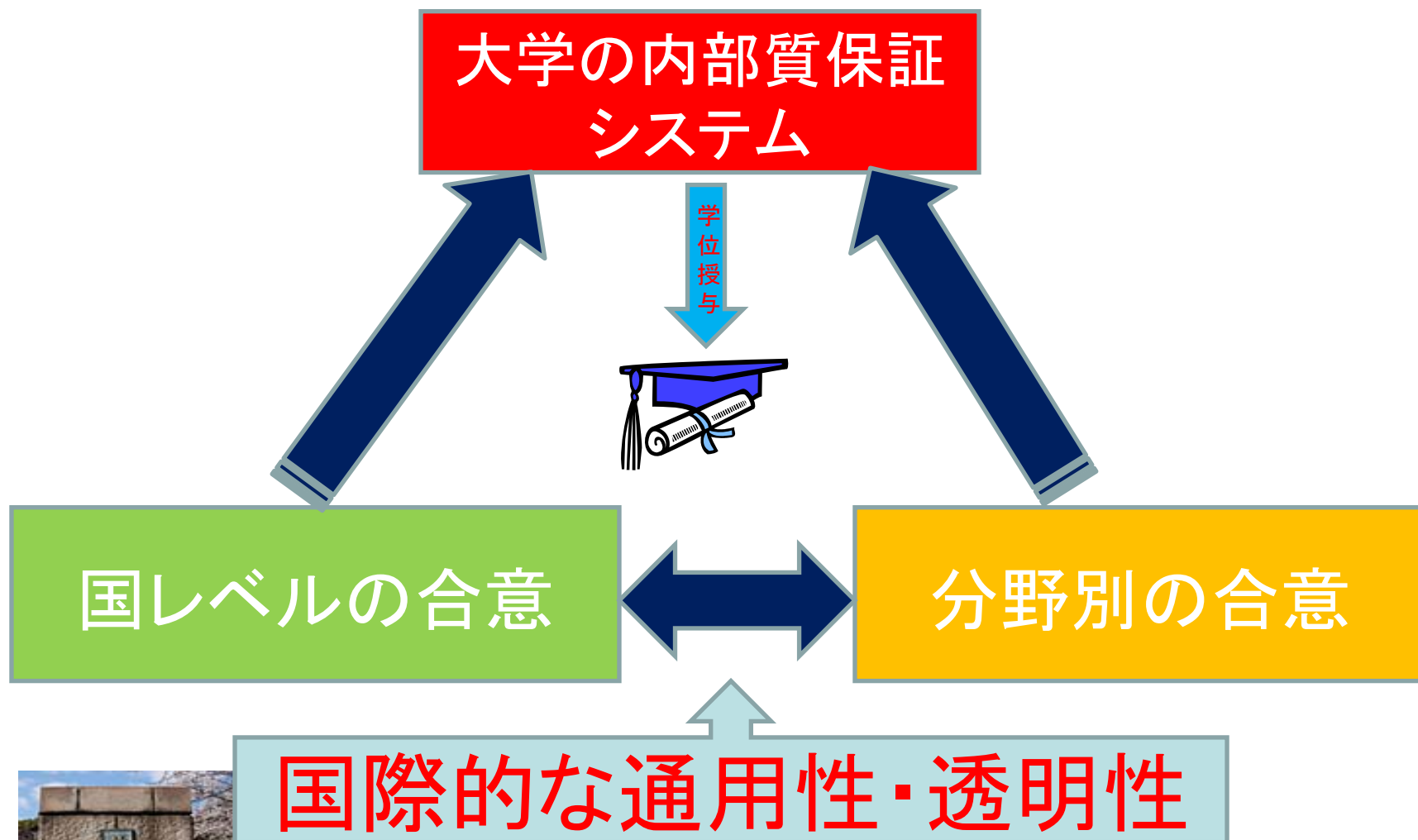
高度  
深い  
卓越



# (参考) 英国のQAAの「Framework for Higher Education」における学士・修士・博士

<b>学士 (優良 学士)</b>	<p>①優良学位は、以下のことができる者に与えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・最小限の最先端の研究分野などについての包括的かつ詳細な知識の獲得を含め、自分の研究分野に関する必要な事項について体系的に理解している</li><li>・研究分野について、分析と調査のための正確で確立された技術を行使できる</li><li>・以下のことが概念的に理解できる(①最先端の研究分野に関する考察や技術を活用して、議論を工夫したり、継続したり、課題を解決したりできること、②研究分野における現在の研究や先行研究について、特定の観点を述べたり、コメントをつけたりできること)</li><li>・知識の不確実性、曖昧性及び限界があることをありがたいと思える</li><li>・自らの学修を管理でき、学術的なレビューや第一次資料(研究記事や研究分野に適切な原資料)を活用できる</li></ul> <p>②この学位を持っている者は、以下のことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自らの知識や理解を再検討し、統合し、拡大し、適用するとともに、研究プロジェクトを主導し、実施するための方法や技術を適用できる</li><li>・ある課題に対して判断するとともに、課題を解決できるような適切な問題設置を行うために、議論、仮説、抽象的概念及びデータを批判的に評価できる</li><li>・専門家・非専門家に対して、情報、理念、課題及び解決策について伝達できる</li></ul> <p>③この学位を持っている者は、雇用に必要な資質や転換可能な技術を持っている(イニシアティブと責任感、複雑で予測不可能な状況に置ける判断力、職業等のために適切なトレーニングを積むために必要となる能力)</p>
<b>修士</b>	<p>①修士の学位は、以下のことができる者に与えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・多くの最先端の学術研究を含め、現代の課題や新しい洞察についての知識や批判的な発見について体系的に理解している</li><li>・自らの研究や先行研究に必要な技術について包括的に理解している</li><li>・研究分野における知識を創造したり解釈するために使用される研究や調査についての技術を確立するため、実践的な理解を伴う知識の応用における独創性</li><li>・以下のことが概念的に理解できる(①研究分野に関する現在の研究や先行研究について批判的に評価できること、②方法論を再検討したり、批判論を発展させたり、適切に新しい仮説を提案したりできること)</li></ul> <p>②この学位を持っている者は、以下のことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・複雑な課題を体系的かつ創造的に扱うことができ、完全なデータがない中においても健全な判断ができ、自らの結論について専門家・非専門家に対して明確に伝えることができる</li><li>・課題に取組み、解決するにあたり自主性と創造性を発揮でき、専門家としての高いレベルで自律的に業務を計画し、実施していくことができる</li><li>・自らの知識や理解力をさらに向上し続け、新しいスキルを高いレベルに発展させることができる</li></ul> <p>③この学位を持っている者は、雇用に必要な資質や転換可能な技術を持っている(イニシアティブと責任感、複雑で予測不可能な状況に置ける判断力、継続的な専門的能力の発展のために自立した学修能力)</p>
<b>博士</b>	<p>①博士の学位は、以下のことができる者に与えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・オリジナルの研究や他の先行研究を通じて、ピア・レビューを満たし、最先端の研究を含み、公表に値するような品質の新しい知識の創造及び解釈ができる</li><li>・多くの学術的な研究や職業的な実践に関する最先端の知識について、体系的に修得し、理解している</li><li>・新しい知識の創造及び最先端の研究についての応用や理解のためのプロジェクトを概念化し、計画し、実施できるとともに、予測できないような課題の観点からプロジェクトデザインを調整できるような包括的な能力がある</li><li>・研究や先行的な学術調査に関し応用的な技術を詳しく理解している</li></ul> <p>②この学位を持っている者は、以下のことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・特別な分野における複雑な課題について、完全なデータがない中においても、良識のある判断ができ、自らの考えや結論を専門家・非専門家に対して明確かつ効果的に伝えることができる</li><li>・新しい技術、考え又はアプローチの開発に多大な貢献をしながら、先進的なレベルで、基礎研究や応用研究の発展について継続して取り組むことができる</li></ul> <p>③この学位を持っている者は、雇用に必要な資質や転換可能な技術を持っている(専門的な環境において複雑かつ予測不可能な状況にあっても、雇用に必要となる自己責任と高い自律性の発揮、及びそのために必要となる品質と転換可能な技術)</p>

# 「質」保証システム





# 「質」保証の基盤整備

国レベルの合意  
(政府と中間団体)

学位の水準・成果：**学士**、  
修士、博士 (cf. NQFHE,  
2006.3.27日経朝刊拙論)

内部質保証システム (cf.  
Codes of Practice)

認証評価基準 (cf. National  
Standards and Guideline)

点検・評価ツール (cf. NSSE,  
CLA, VSA)

分野別の合意  
(日本学会会議等  
の学協会)

分野別の水準・成果  
(cf. Subject Benchmark  
Statement)

# 水準と専門性





# アウトカム重視のアプローチ

どんな人材を育成するのか  
理想的な卒業生とは

## 卒業生の属性

認知的領域(知識・理解)

情意的領域(関心・意欲・態度)

精神運動的領域(スキル)

(B.S.Bloom)



# 学習成果(Learning Outcomes)とは

1. 何を学生は、知り、理解できるべきか。

What students should **know/understand**.

2. 何を学生はできるべきか。

What students should **be able to do**.

3. どのような学生であるべきか。

What students should **be like**.



# 学習成果(Learning Outcomes)とは

## Bloom's Taxonomy

- ・ 認知的領域Cognitive Domain
  - 知識・理解
  - 思考・判断
- ・ 情意的領域Affective Domain
  - 関心・意欲
  - 態度
- ・ 運動的領域Psychomotor Domain



# 学習成果(Learning Outcomes)とは

- Specific
- Measurable
- Achievable
- Relevant
- Time Scaled

Source: University of Westminster



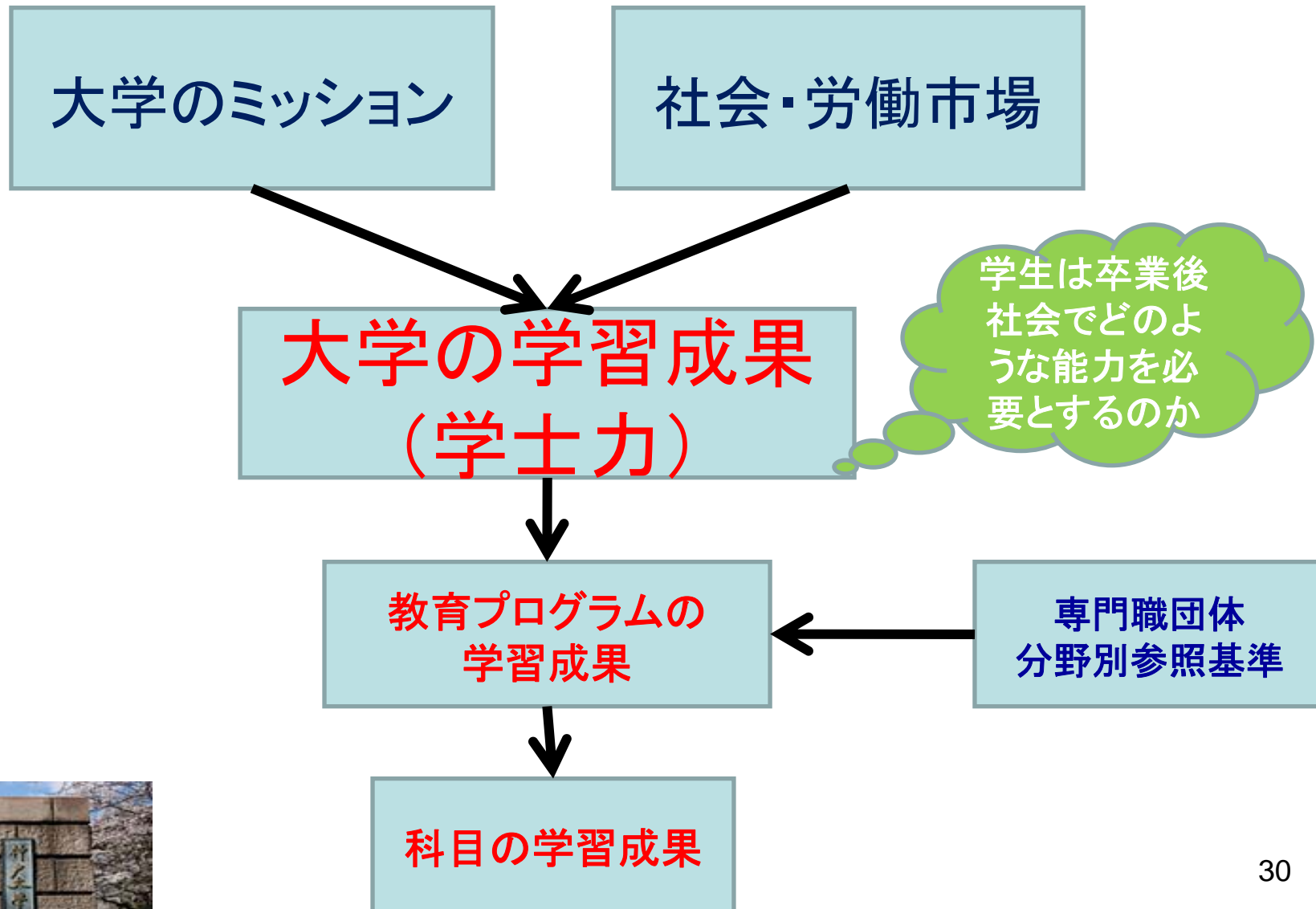
# アウトカムを重視した教育とは

“Outcome-based education means **starting with** a clear picture of what is important for students to be able to do, **then** organising the curriculum, instruction, and assessment to make sure that this learning ultimately happens.”

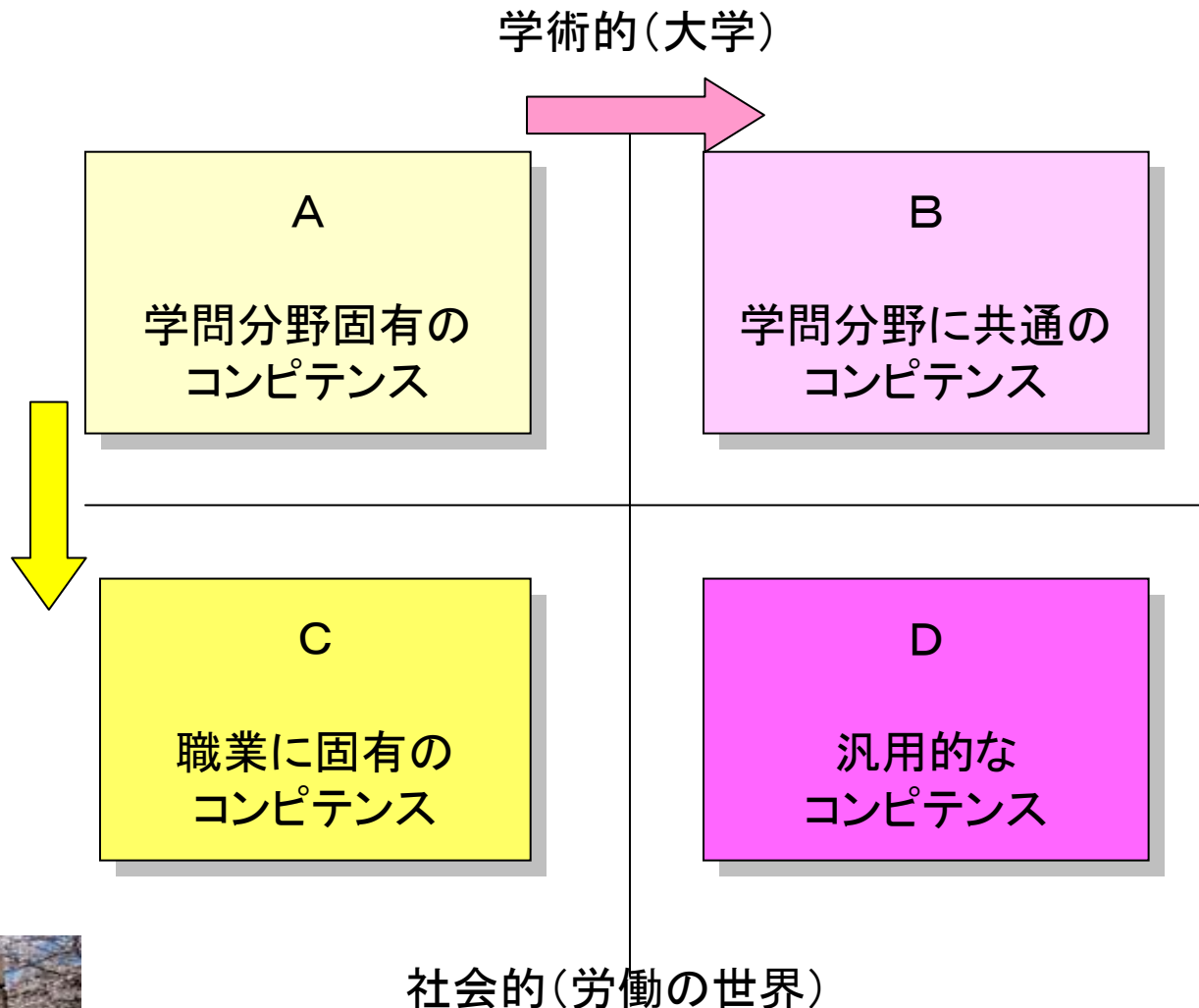
From Spady, W. (1994), *Outcome Based Education: Critical Issues*.



# 下降的カリキュラムデザイン



# 高等教育と職業資格



# コア・カリキュラムと学習成果 KOBE UNIVERSITY

## 質保証の観点から

アプローチ	インプット	プロセス	アウトプット	アウトカム
コア・カリキュラム	多様	一定	多様	多様
学習成果	多様	多様	一定	一定





# 学士に求められる学習成果

各専攻分野を通じて培う「学士力」  
～学士課程共通の「学習成果」に関する参考指針～

## 1. 知識・理解

専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。

- (1) 多文化・異文化に関する知識の理解
- (2) 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解

## 2. 汎用的技能

知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能

- (1) コミュニケーション・スキル  
日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。
- (2) 数量的スキル  
自然や社会的事象について、シンボルを活用して分析し、理解し、表現することができる。
- (3) 情報リテラシー  
ICTを用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。
- (4) 論理的思考力  
情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。
- (5) 問題解決力  
問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。

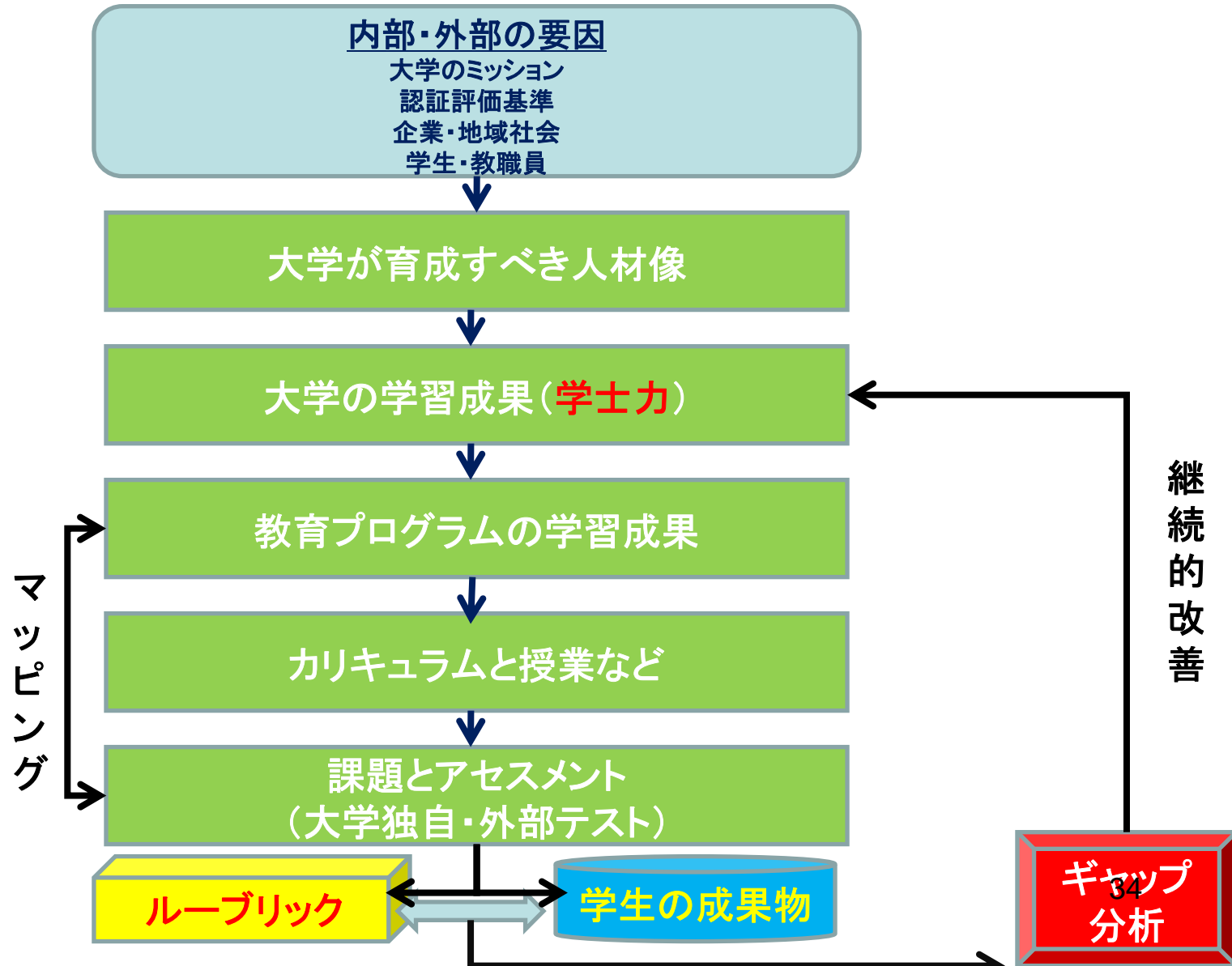
## 3. 態度・志向性

- (1) 自己管理力  
自らを律して行動できる。
- (2) チームワーク、リーダーシップ  
他者と協調・協働して行動できる。また、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる。
- (3) 倫理観  
自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。
- (4) 市民としての社会的責任  
社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。
- (5) 生涯学習力  
卒業後も自律・自立して学習できる。

## 4. 統合的な学習経験と創造的思考力

これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力

# 学習成果マネジメント



ご清聴ありがとうございました。  
[tatsuo@kobe-u.ac.jp](mailto:tatsuo@kobe-u.ac.jp)

